徳島県総合計画審議会 - 若者クリエイト部会- 課題
「６．まなびの邦・育みとくしま」

福島 明子・釋子 由香梨

目次

6.1	はじめに	1
6.2	現状の取組ってどんな項目があるの？（現状を知ることは大事！）	2
6.3	現状の課題って何があるの？（現状を知ることは本当に大事！）	4
6.4	これまでの取組の各項目について評価部会の評価が低い項目は？	8
6.5	着目したい項目・必要な項目って何だろう？	11
6.6	将来あるべき姿・講じるべき政策を考える！	13
6.7	おわりに	18

6.1　はじめに

我々は、忘れることはない東日本大震災や、リーマンショックに端を発した世界的な経済不況など、多様な困難を経験している。「いけるよ！徳島（Tokushima）行動計画〈オンリーワン徳島行動計画〉」においては、飯泉知事の「ピンチをチャンスに！」を合言葉に、「徳島」に視点を置いたとき、社会経済が取り巻く環境の中で、何が問題であり、何をすべきか、ということについて議論がなされたところである。ここで、こと若者からの視点では、勿論置かれた状況は同じであるが、これまでの成果、なされた議論を基に、我々若者は、現状の何を問題視し、不安に思い、何を希望とし、将来の徳島がどのようなものであることを望んでいるのか、さらに、そのためにどのような取組を必要としているか、ということを改めて考える。我々はそれを「まなびの邦・育みとくしま」に焦点をあて、6 年後（2020 年）および 10 年後の徳島の姿を探るべく、現状での問題点と目指すべき徳島の姿、それを実現するための施策を考える。先に示した行動計画は、大きくみて三部構造になっていることである。以下の図 6.1 の通りである。現状分析においては、この枠組みを基に、議論を展開する。

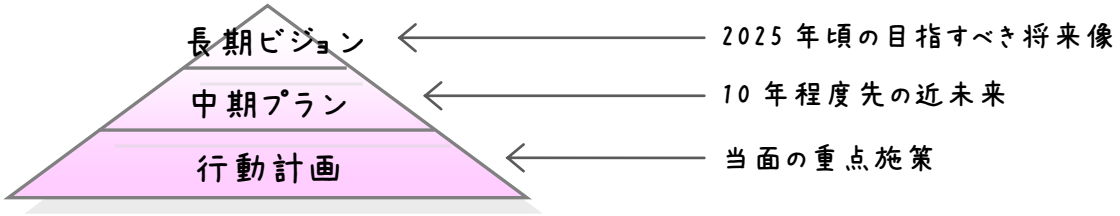

図 6.1　「いけるよ！徳島（Tokushima）行動計画〈オンリーワン徳島行動計画〉」計画の構成

※　「いけるよ！徳島（Tokushima）行動計画〈オンリーワン徳島行動計画〉」参照

6.2　現状の取組ってどんな項目があるの？（現状を知ることは大事！）

本項では、平成 26 年度版の「いけるよ！徳島（Tokushima）行動計画〈オンリーワン徳島行動計画〉」において、『基本目標 6「まなびの邦・育みとくしま」』に関する現状での取り組みについて、我々の視点で読み取る。なお、詳細の内容については、原本を参照されたい。

① まなびの礎とくしまづくり

㊥ ・ 少人数指導で個性・能力・適性を伸ばす → 世界を舞台にする人材育成
・ すべての子どもが学校生活を楽しいものに → 学校づくり
・ 郷土に誇りを持ち「働く」ことへの関心と意欲を持った子どもたち → キャリア教育

㊥ ・ ICT を踏まえた総合的な分野における即戦力となる人材育成
・ ひとりひとりが活き活きと活動できる「心の居場所」たる学校づくり
・ 日本、徳島に対する理解を持った上で、国際的視野に立った行動ができる人材育成

㊧ ・ 少人数グループ指導やティームティーチング指導の教員配置
・ スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置・増員
・ 高校再編
・ 農業・商業・ICT 活用教育の充実
・ 世界に誇ることができる郷土愛を持った人材育成
・ 留学する児童・生徒・学生の育成
・ ICT を活用した保健体育教育の充実
・ 職業訓練・インターンシップなどの社会性を持つ子どもたちの育成の推進

② 個性尊重とくしまづくり

㊥ ・ 障がいのある子どもたち → ニーズに応じた教育

㊥ ・ 特別支援学校等のきめ細やかなニーズに応じた教育
・ 「発達障がい」を正しく理解し、協働する社会の醸成

㊧ ・ 幼児～高校の継続的かつ一貫した教育支援
・ 発達障がいのある生徒児童の社会的・職業的自立の支援・教育

③ みんなのまなびやとくしまづくり

㊥ ・ 子どもたちの社会性の形成 → 日常的な地域社会での人間性と社会性の形成

㊥ ・ 地域社会との連携による教育（芸術・スポーツを含む）
・ 地域のことを知る・地域の防犯、交通安全、防災に対する取組の活性化

㊧ ・ 地域と関わり勉強・スポーツ・文化活動ができる学校づくり
・ 地域貢献、オンリーワンハイスクールを実現できる取組

④ 生涯まなびとくしまづくり

㊥ ・ 誰もが自由に学び能力を発揮できるシステム → 地域社会への貢献

㊥ ・ ニーズや社会趨勢に伴った故郷徳島を想う人材の育成と社会の醸成

㊥ ・ 学びたい人が学びたいときに学ぶことができる機会をつくる

・ 地元地域を始めとした社会に対する思いやりを育む「地域教育力」の向上

・ 特に地場産物を活用する食育

⑤ 青少年健全育成とくしまづくり

㊥ ・ 家庭、地域で育む「大人としてのわきまえ」と言える良識ある人格の形成

㊥ ・ 将来、地域社会に参画する若者の活躍の場を若者とともに地域全体でつくりあげる

㊥ ・ 青少年の多様なライフスタイルに応じた活躍の場の整備とその指導者の育成

・ 地域一丸となった非行防止と健全育成の取組、支援活動

6.3　現状の課題って何があるの？（現状を知ることは本当に大事！）

上記のように、これまでも多くのことが議論され、多岐に渡り、政策が講じられている。2014 年 3 月に、全国の全市区町村を対象に行ったアンケート（福島, 近藤：地方自治体からみた地域の課題に関する実態調査, 2014.3.）の結果、自治体からみたとき、自らの地域の現状の課題の深刻度の分布は以下の図 6.2 の通りであった。まず、表 6.1 にブロック別の回答率を示す。

表 6.1　各ブロックにおける自治体の回答率

圏域	都道府県	市区町村数［2010年時点］	回答数（市区町村数）	回答率（%）
北海道東北	北海道・青森県・岩手県・宮城県 秋田県・山形県・福島県・新潟県	460	187	40.7
関東	茨城県・栃木県・群馬県・埼玉県・千葉県 東京都・神奈川県・山梨県・長野県	468	144	30.8
北陸	富山県・石川県・福井県	51	13	25.5
中部	岐阜県・静岡県・愛知県・三重県	188	68	36.2
近畿	滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県	250	69	27.6
中国	鳥取県・島根県・岡山県・広島県・山口県	121	34	28.1
四国	徳島県・香川県・愛媛県・高知県	95	43	45.3
九州	福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県 大分県・宮崎県・鹿児島県・沖縄県	288	81	28.1
合計		1,921	639	33.3

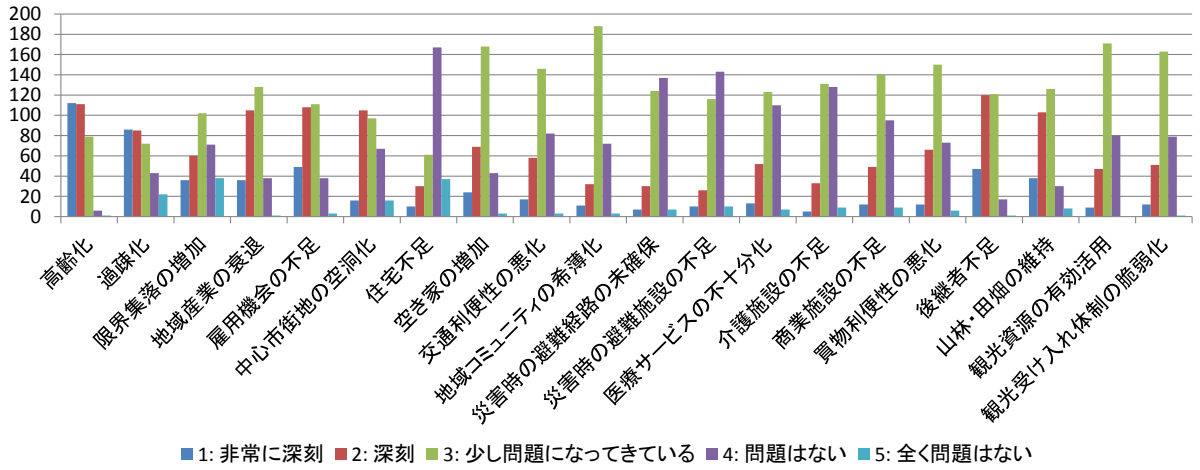

図 6.2　自治体からみた地域の課題の深刻度

図 6.2 に示すように、全国の市区町村において、自治体の捉えている課題については、高齢化や過疎化で深刻度が特に高いと回答した自治体が多いことがわかる。過疎化と高齢化は、それらから派生する課題も非常に多い。まず、総合的な項目として、その 2 点を挙げ、さらに、これまでの取組の枠組みにしたがって、我々で考えられることを以下に示す。これらはすべてが新たな提案ではなく、以前から議論に上ったことであると考えられるが、項目として挙げる。

○ 総合的な項目

1 少子高齢化・人口減少は、現状では大問題

→ どういうことか?

2004 年をピークとした日本の人口減少は世界でも類をみないような急速かつ長期的なものであると推測されている。また、日本における少子高齢化についても、いわゆる先進国と言われる世界のどの地域でも経験のないものである。それらは、四国では全国に先駆けて、10 年前および 20 年前から生じている現象である。世界に先駆けて新たな状況を経験することになるため、新たな取組をする必要がある。どの経験も、もちろん、プラスにしたい！

… それの何が問題?

１．生産年齢人口の減少（15～65 歳人口の減少）

生産年齢と言われる年齢層の幅を広げなければならない？

生産年齢人口が減少すると、これまでのやり方で、地域の経済発展を見込むことは難しいが、今の前期高齢者、後期高齢者共にお元気なので、まだまだ働く世代として、地域（日本）の働く世代となる必要があるのではないか。

２．出生率の低下、高齢者を支える世代の人口不足

出生率を上げる政策をしなければ！**子育て支援策をさらに強化**する必要がある？

子ども一人を育てることを考えたとき、経済的問題や、共働きの増加による子どもを育てる環境への不安が増大している。… 基本目標５の範疇か？

2 限界集落、消滅集落の存在可能性は大問題

→ どういうことか?

日本においては、限界集落は、人口の 50%以上が 65 歳以上の高齢者である地域を指し、消滅集落は、かつて存在していた集落の人口が 0 人となり、集落として成り立たない状況になった集落を言う。消滅集落は、特に北陸・四国地方に多くみられる可能性が高いと言われているが、今後の取組、社会趨勢次第では、どの地域がそうなるか、またはそのようなことはないかは予測が困難である。

… それの何が問題?

１．集落が消滅する、ひいては人口減にもつながる

集落が消滅することは自らが生まれ育った、生活をしてきた地域がなくなること。地域への愛着そして、それら集落を包含する地域への影響は多大。それを受け入れないといけない時代に直面しているのか？**人口流入策・流出抑制策**はないか？

先に紹介したアンケートの結果、人口流入に関する施策として成功したものは何か？という問いに対して、多くのご回答をいただいた中で、施策を講じたものの、成功した事例はないといった回答がみられた。何と言っても、**人が住み、生活するには、働き稼ぎ、住むところがあることが必要条件**として挙げられる。

○ 「まなびの邦・育みとくしま」に関する項目

各項目について、我々が読み解く現状での課題を以下に示す。

① まなびの礎づくりとくしま

・ 国際的に活躍する人材の育成？ICT を活用した人材の育成？

世界で活躍する人材の育成に不可欠なのは、まずは**生まれ育った地域のこと、日本のことを知る**こと。**英語や他国の言語をしゃべられるようになる**こと。さらに、ICT については環境としての恩恵は受けているけれど、本当に **ICT を活用できている**か？

徳島県の一部の大学生、高校生とお話しをする限り（日本国内、どこもそうかも知れない）、外国語への苦手意識をもっている子が多く存在する。さらに、国外の人に比べ、**歴史を含め地域のことを知らない**人が多い。**ICT に関しても、利用はしているものの、その仕組みを知り、活用できている人が少ない**のではないか？

② 個性尊重とくしまづくり

・ 我々地域住民が、障がいのこと、子どもたちのことを理解しているか？

障がいとはどういうものか？障がいのある人と関わることがあるか？ もしかすると正しく理解しておらず、障がいのある人と関わることがない人が多いのではないか？自ら機会を求めないと、理解すらも出来ないのではないか？

③ みんなのまなびやとくしまづくり

・ 子どもたちの社会性の形成

子どもたち昔と比較して、社会性を形成することが困難なのではないか？核家族化が叫ばれて久しいが、近年では地域環境の変化から、隣のお家の人のことを知らない場合も多く、近所の人ですら関わることが拒まれる時代になっているのではないか。このような現状下で、子どもたちが社会性を身につけることは以前と比較して、困難であるのではないか？

④ 生涯まなびとくしまづくり

・学びの機会は格段に増えている。問題があるなら、その提供の仕方か？

誰でもいつでもという訳にはいかない。公的、私的、どちらをとっても、人が学ぶということについては、その機会は格段に増加している。**ICT を活用するとともに、実際に体験すること人と触れ合うことも忘れず、学ぶ機会の維持**に努める必要があるのではないか？

⑤ 青少年健全育成とくしまづくり

・ 地域ぐるみで子育てをする環境がなくなってきている。

③の問題と同様に、**周りの大人が子どもたちと関わることが難しくなっているのではないか。**犯罪など、近隣の住民であるとはいえ、信頼することができない状況になっているのではないか？

6.4　これまでの取組の各項目について評価部会の評価が低い項目は？

基本目標６「まなびの邦・育みとくしま」に関して、平成 25 年度に開催された県政運営評価戦略会議の評価結果は次の通りである。

表 6.2　「基本目標６　まなびの邦・育みとくしま」に関する事業の評価結果

※平成 25 年度の県政運営評価戦略会議の評価による

A 順調	B 概ね順調	C 要見直し	D 抜本的な見直し	計
55（65.5%）	26（31.0%）	3（3.6%）	0（0%）	84（100.0%）

表 6.3　評価の目安

Ａ～Ｄの評価の目安		取組内容及びこれまでの成果		
		妥当	概ね妥当	不十分
今後の取組方針	妥当	A	B	C
	概ね妥当	A	B	C
	不十分	B	C	D

評価がＣであった項目とその内容、今後の取組方針等は以下の通りである。内容等は、評価表から抜粋。

● 学校保健の充実を図るとともに、学校・家庭・地域・専門機関と連携し、子どもたちの現代的な健康課題の解決に取り組みます。特に、望ましい生活習慣の定着を図り、児童生徒の肥満予防・肥満対策、生活習慣病予防対策を推進します。

＜H23・24・取組内容と進捗状況＞

１「学校保健課題解決支援事業」において，教育・医療・保健・ＰＴＡ関係者等で支援チームを組織し生活習慣病等健康課題について協議した。（H24：4 回）

２．学校関係者への研修会において，生活習慣病予防に関する啓発や各校の実践発表を実施した。

３．生活習慣病等，各地域の健康課題に即した専門医の派遣を行い，地域の取組を支援した。（H24：9 件）

４．平成２４年度から医師会と連携し，全校種で学校検尿検診システムを開始し，疾患の早期発見・早期治療や生活管理・指導に役立てた。

上記の取組により、女子６才平均以下、内訳指数として高度肥満男子では半数の年齢で平均以下となった。

＜課題＞

・家庭の協力が不可欠であり，保護者の理解や効果的な連携が課題である。また，生活環境の変化により充分に運動できない状況であることも課題である。

＜今後の取組方針＞

・健康診断（尿検査・小児肥満）の二次検診の受診率を向上する。
・県医師会や県内大学と生活習慣病について継続的に協議を行う。
・肥満傾向のある児童生徒に対し，治療や生活習慣の改善を支援する。
・保護者を含めた地域への研修等に専門医の派遣を継続し，生活習慣病等健康課題への取組を支援する。
・食育や体力向上との関連を図り，総合的に生活習慣病予防に取り組む。
・「早寝早起き朝ご飯」運動の推進。

● 特別支援教育の充実を図るため、教員の専門性向上に取り組みます。

＜H23・24・取組内容と進捗状況＞

1　県教育委員会教育職員免許法認定講習の開催で１講座増の４講座開設
2　短期取得のため，放送大学等を併用しての免許取得等について紹介上記の取組により、免許取得に必要な期間の短縮を図ることができ、取得率が向上した。

＜課題＞

・特別支援学校以外に勤務する教諭等に対する免許取得講習受講の要件拡大

＜今後の取組方針＞

・特別支援学校の専門性向上のため、今後も受講を推奨する。
・特別支援学校への異動の可能性があり、また、各学校における特別支援教育の専門性を高めるため、小・中・高等学校教員の受講促進を図る。

● 地域住民の積極的な参加による防犯・交通安全・防災の総合的な学校安全ボランティア活動の支援を行い、幼児・児童生徒の安全確保を図る取組を継続的に推進します。

＜H23・24・取組内容と進歩状況＞

・スクールガードを中心に、中学校のＰＴＡ組織である健全育成部や地域委員会等に呼びかけ、あん・あんサポーター体制を構築。
・「スクールガードリーダー連絡協議会」を開催し、県内の不審者情報の共有や子どもを犯罪から守る対策、自転車事故防止等について、警察等との関係機関との協議を実施。
・通学路での見守り活動を行う、「学校安全ボランティア」の養成をし、全ての小学校区においてスクールガードが活動する、地域と連携した活動を各学校や市町村教育委員会へ依頼。

・幼児、児童生徒の安全確保について、安全マップの活用や子ども 110 番の家の周知徹底、不審者情報の連絡体制の整備をする。

・24 年度の、自転車事故の件数を減らす目標から、事故件数そのものを減らしていく目標に変更し、学校安全体制の整備を図る。

・児童生徒の安全確保についての取り組みが実施できた。

＜課題＞

・統合や閉校による小学校数の減少及び高齢化により、スクールガードの数が減少傾向にある。

・統合により校区は広くなっている。

・あん・あんサポーターの拡大と充実

＜今後の取組方針＞

・警察や防犯団体、地域の自主防災組織等の関係団体との連携を強化するとともに、教員ＯＢ防災ボランティアにサポーターとなってもらうなど、子どもの安全確保の一層の拡充を図る。

6.5　着目したい項目・必要な項目って何だろう？

上記の状況と現状をみたとき、この時代に、そしてこれからの時代において、「まなび」や「教育」に関して、着目したい項目、必要であると考えられる項目を挙げる。

6.5.1　地域貢献をしたい若者の増大！

東日本大震災以降、また、NPO が果たしている役割の広がりによって、近年、地域や社会に貢献できることを求めている若者が増加していると言われている。このような状況下で、若者のみならず、多様な世代が協同して時代に応じた活躍の場を検討し、創出することが求められる。厚生労働省（平成２５年版 厚生労働白書　若者の意識を探る【 概 要 】）によると、若者の意識は次のようであるとまとめている。「働く目的は、経済的豊かさよりも楽しく生活することを重視。会社の選択に際しては、能力・個性の発揮を求め、長期雇用の下でのキャリア形成を志向している。」

http://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/13-1/dl/gaiyou.pdf

6.5.2 職場体験や地域社会との関わりで、今の学習がどのように活きるのかを学びたい！

今、学校で学んでいることが将来何の役に立つのかを学ぶことは、学習段階、発達段階において非常に大きな意味を持つ。そのため、地域社会で活躍するにあたってのキャリア教育が求められる。文部科学省においても、職場体験などの必要性を訴えるとともに、キャリア教育についても多くの取組を行うことを推奨している。

徳島県においても、徳島県立総合教育センターを始めとする様々な取組がなされている。

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/index.htm

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/05010502/026/001/001.htm

6.5.3　社会人でも学びたい！でもその環境は？

日本でも一般的になっている生涯学習について、社会人が仕事の時間以外で学ぶ機会は以前と比較して増加していると考えられる。文部科学省においては、中央教育審議会生涯学習分科会が開催されるなど、その議論がなされているところであるが、今の社会を考えたとき、先述のように、大まかには次の２点を考慮したい。１つ目は、ICT を活用すること、２つ目は、人と人との交流や体験を積極的に行える環境を整えることである。

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo2/toushin/1330378.htm

6.5.4　SNS 等を利用したいじめ問題・犯罪の増加

一般的には情報を受ける側であった国民が、気軽に発信する側にもなれる昨今、SNS 等を通じた、いじめ問題や犯罪の事例は、枚挙にいとまがない。また、地域住民が子どもたちに関心を寄せる余裕がなくなる、関わると逆に不振に思われるなどの時代背景を基に、「見守り」ができなくなりつつあることも、これに拍車をかけているのではないか？

総務省においても、この深刻さを問題視しており、注意を呼びかけている。

http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/kyouiku_joho-ka/trouble_jirei.html

6.5.5　社会と関わるのがコワイ？働きたくない？

ニートやフリーターの若者が増加している。厚生労働省の「若者雇用関連データ」によると、平成 14 年以降、ニートの数は 60 万人台で推移している。その絶対数は必ずしも増加している訳ではないが、割合は増加している。ニートやフリーターが増加すると、働き手が減少していくため、産業の活性化にとってマイナスの影響が出る。さらに、働かないことで、収入も多くなく、これは結婚にとってマイナスの影響があるといわれている。人口減少にもつながっていく。

http://www.mhlw.go.jp/topics/2010/01/tp0127-2/12.html

また、内閣府の「平成 25 年版 子ども若者白書（全体版）」の「第２節 若者無業者、フリーター、ひきこもり」によると、広義のひきこもりは 2010 年時点で、69.6 万人であると推計されている。その理由としては、「職場や大学に馴染めなかった」「小中高の不登校」などが挙げられている。非常に深刻な問題である。

http://www8.cao.go.jp/youth/whitepaper/h25honpen/index.html

相まって、コミュニケーションを取ることに抵抗を感じている人が増加してきている。

6.5.6　地域で能力を活かすことができる場がない？

人口減少やリーマンショックに端を発した経済不況の影響もあり、特に地方では雇用の場の不足がみられている。一方で、雇用政策を取り巻く状況も近年変化している。2007 年の改正雇用対策法や 2003 年の職業安定法の改正などを機に、これまで国が行っていた雇用対策の権限委譲が進み始めた。

雇用の不足は、生まれ育った地域や魅力のある住みたい地域で、能力を発揮したくてもできない、生活をしていけないということから、地域からの人口流出を加速させ、人口流入を抑制させてしまっている可能性がある。

6.6　将来あるべき姿・講じるべき施策を考える！

以上の現状の課題と着目すべき項目等を踏まえた上で、「まなび」と「教育」を中心に、徳島県の将来あるべき姿（6～10 年後の中期目標）を述べ、それを実現させるために講じるべき施策の提案を行う。ここでは、これまで具体的に示されていないと考えられる新たな視点からの将来像と施策を中心に示す。今、講じられている施策等を前提に以下を提案する。

幼稚園・小学校の児童・生徒は？

［将来あるべき姿］

① 子どもらしい、おもてなしの心を育んでいる

観光地の中には今もその地を訪れると子どもたちが元気にあいさつをしてくれる地域がある。これは立派なおもてなしである。また、地域の魅力を伝えられる子どもたちの育成。これにより、地域内外への地域の魅力発信につながるとともに、地域への愛着と誇りの醸成にもつながることが期待できる。徳島の子どもたちも、そうである。

② 子どもたちが地域での遊びや活動に積極的に参加し、郷土愛を育んでいる

人とのつながりが希薄になりつつある現代において、特に子どもたちが育っていく地域の中で、子どもたちが、伸び伸びと健やかに育つため、地域との関わりを持ち、幅広い年代の人と交流している。

③ 農林水産業の体験をしたことがあり、その楽しさと苦労を知っている

徳島の基幹産業である農業を中心に、農林水産業に関して、生産や漁獲から流通までの一連の流れを体験、学習することにより、地域を支えている産業について理解している。ただ楽しいという体験だけではなく、苦労も同時に学ぶことにより、日々の生活における安全、食と自然の重要性や感謝の気持ちを育んでいる。

［講じるべき施策］

① 幼稚園・小学校における「みーんなで、おもてなし！会」の開催

児童・生徒が身につけられる「おもてなしの心」について学び実践する会を県内すべての幼稚園・小学校で開催する。そのサポートを地域全体で行う。

② 「とっくしまっ子！地域のお祭りスキスキ！」イベントの開催・環境整備

地域のお祭りや行事などに、子どもたちが積極的に参加し、楽しむことができるように、子どもたち目線での楽しい演目の追加、行事の開催を行う。

③ 「農業・林業・水産業！みーんなが知っているよ！徳島！」の開催

現状での取り組みをベースにその体験内容を充実させると共に回数を増加させる。これを県内すべての幼稚園・小学校で実施する。

中学校・高校（・小学校）の生徒は？

［将来あるべき姿］

① おもてなしの心を育んでいる

幼稚園・小学校の児童生徒と同様に、中学校・高校の生徒においても、地域の魅力を伝えられる子どもたちの育成。これにより、地域内外への地域の魅力発信につながるとともに、地域への愛着と誇りの醸成にもつながることが期待できる。（先述と同様）

② 小中高生が地域貢献を実践するための知識を有し、活躍の場がある

今学んでいることが、果たしてどのようなことに役に立つのかということを知らずに学ぶより、知って学ぶほうが、より効果的に、また、楽しく、将来を見据えて学習することができる。それが実現され、学習意欲の高い子どもたちが多い。さらに、それぞれの能力・個性を発揮した活躍をしている。

③ 国際的に活躍する子どもたちが多い

徳島にいながらにして国際的に活躍をする子ども、また、徳島を飛び出し、国際的に活躍をする子どもが多く存在する。

［講じるべき施策］

① 「〇〇市（町・村）マイスター！」「とくしマイスター！」の認定

各市町村のことを学習し、その検定試験に合格した中学生や高校生にマイスターの称号を与える。徳島県についても同様。（認定のための学習・試験の作成が必要 … 『働いている人・高齢者は？』の欄を参照）マイスター！とマイスター！先生の交流も盛んである。

②-1 「徳島！本気！職場体験！」の実施

職場体験においても、数時間ではなく、何日間かに渡り、職場での職業体験を実施する。そのために、受け入れ企業・団体の募集を行い、職場体験を実践する。

②-2 「徳島の仕事のことまるわかり辞典」の制作・提供

１人の生徒が多くの業種の職場体験、職業体験をすることは非常に困難であると考えられるため、農林水産業を含む、より多くの地元企業・団体の仕事について理解することができるように、テキストや映像の制作を行い、提供する。

③ 「東新町西新町・徳島の交流街」をつくり、盛り上げる

国際的に活躍する人材育成のため、基礎的項目として、まずは、他国の言葉や文化を理解するために、空き店舗やボードウォークを利用し、さまざまな国籍の人たちが交流できる場を設け、イベントを開催する。また、その参加を促進する。

特別支援学校の児童・生徒は？

［将来あるべき姿］

※上記「幼小中高の児童生徒は？」に加え、以下のことを実現する。

① 個性を光らせ、自ら発信できている

地域全体で特別支援学校のこと、互いの児童生徒のことを理解していることを前提に、幼小中高の児童生徒たちが、互いに互いを理解し、個性を活かしている。そして、協働の取組をしている。大学・専門学校等でもその体制が整っている。

［講じるべき施策］

①「徳島の若者、この人！この取組！知ってね☆キャンペーン！」の実施

特別支援学校に通う児童生徒、幼小中高校に通う児童生徒が、お互いにお互いのことを理解し、さらに、個性や能力を認めた上で、徳島の若者ではこの人！、この取組！と徳島の光を互いに見出すことができる教育（交流）を実施する。協働の取組を実施する。それを前提に、若者たちが交流できる場を創出し、それぞれの意見を聴き、それを発信できるシステムを構築する。高等教育機関でも同様である。

大学・専門学校など高等教育機関の学生は？

［将来あるべき姿］

① 自らが主役・主取組であることを認識し、それらを活かすことができている

学んでいること、取り巻いている環境を理解した上で、徳島の未来は自らが担うことを認識している。さらに、学んでいる専門知識を活かし、徳島の持続可能な発展のためにすべきことを理解し、実践している。

② 文系・理系の別なく、それぞれの学びに自信を持ち世界で活躍している

現在学び研究していることは、それぞれにとって専門であり、それぞれ一番理解し発展させていくことができるものであるとの認識と自信を持ち、世界で活躍している。

［講じるべき施策］

①・②「トクシマ若手専門家からの発信！みんなでトクシマ SHOW！」の実施

全国に先駆けて、多様な分野の若手研究者・学習者が、入り交じり、自らの研究学習成果を一堂に発表できる場を創出する。また、その会をコーディネートできる人材の育成と場の創出を行う。これにより、課題発見・解決、コミュニケーション、コーディネート、企画、など多岐に渡る能力を養成することができる。このとき、各研究分野の専門家の先生とのディスカッションについても、その機会を提供する。

働いている人・高齢者は？

［将来あるべき姿］

①　地域の大人が地元市町村や徳島県をよく理解し、子どもたちに伝えられる

現在なされている「とくしま学博士」認定に倣い、地元地域について、その歴史、文化、自然、地理を理解した上で、地域の子どもたちに伝えることができている。

② 学びたいときに学びたいことを学びたいだけ学ぶことができている

徳島県民が欲する学びに対して、それらを包含した学びが提供されている。学ぶ側はそれらを、いつでもどこでも学ぶことができている。

［講じるべき施策］

①　「〇〇市（町・村）マイスター！先生」「とくしマイスター！先生」の育成

子どもたちに地域のことを教えるために、現状の「とくしま学博士」認定者で構成されるマイスター先生を育成する。また、マイスター先生は、子どもたちへの教育に加え、マイスター検定の問題の作成等も行う。

さらに、マイスター！先生については、既存の認定について、その分野や階級を細分化する。つまり、「〇〇分野・おじいちゃんの知恵マイスター！先生」や「〇〇分野・お姉さんマイスター！先生」、「〇〇分野！専門家マイスター！先生！」など、それぞれが得意とする分野で、さらに、その知識や知恵の範疇で、自ら申請区分を選択し、「マイスター！先生」となる。

〇　例えば

・「吉野川の生態系・専門家お兄ちゃんマイスター！先生」

→ 吉野川における生態系を熟知し、研究する大学生。どのような動植物が存在するか、それを守り生かすために、どうしたらよいか、類似した環境で世界ではどのような取組がなされているか、子どもたちは、どのようなことを楽しむべきか、学ぶべきかを伝える。

・「牟岐の海・漁師のおばちゃまマイスター！先生」

→ 牟岐の漁師町の女性。牟岐の海ではどのようなお魚が釣れるか、昔と比べてどうか、漁師町の女性は今どのようなことをしているか、子どもたちは、どのようなことを学び楽しむべきか、を伝える。

②　「徳島学び発信 BOX」の提供

県民の学びへのニーズを把握するシステムの構築をする。さらに、それを可能な範囲で学びたいときに学ぶことができるように、学びに関するテキストや映像を作成する。それとともに、既に存在しているページの紹介などを行うような、情報の発信を、これまでに整備されてきたブロードバンド環境を活かし、まとめ、提供する。

みんなは？地域社会は？

［将来あるべき姿］

① 健康的な人で溢れている

糖尿病や肥満など、健康について課題を抱えておらず、健康な社会を実現。

② みんなが地域社会と関わり、いきいきとした生活を送っている

ニートやフリーターが大幅に減少し、学校や会社など社会で活躍する。また、特にインターネットなどを通じた、いじめや犯罪のない社会を実現している。

③ 地域で取り組む・地域から学ぶ社会の実現

企業、地域、家庭、学校等が一体となり子どもを育てている。また、地域住民が、地域から学び、魅力等を発信している。

④ 家庭教育充実のための環境整備ができている

家庭での教育が充実している。学校等に頼りすぎない躾、教育ができている。

［講じるべき施策］

① 「健康やけん！」の宣言とそれに係るイベントの開催

全国と比較して現状で深刻である糖尿病などの健康被害のない社会を実現するために、まずは意識づけとして、「健康やけん（県）！」を宣言する。また、現在行われている、とくしまマラソンやセンチュリーランなどのイベントを強化する。団体の表彰制度などを設ける。さらに、他の健康増進イベントを開催する。

② 「ネットの弊害、先進的に解決するけん！」の宣言とそれに係る教育の充実

世界的に抱えているインターネットなどによるいじめや犯罪、さらに、ニートやフリーターの問題について、先進的に解決するために、幼少期から上記のような取組を講じ、思いやりの心の醸成、地域と協同しての取組の充実を図る。また、「ネットの弊害、先進的に解決するけん（県）！」を宣言し、ブロードバンド環境の先進地域としての誇りを持った上で、ネット環境を駆使した弊害について、先進的にその課題に取り組む心の醸成を図る。いじめや犯罪については、その卑劣さを教育するとともに、それらを見守り注意できるような社会の醸成を図る。

③・④ 「地域が先生」をモチベーションに地域一丸となった教育の実施

地域一丸となって、教育し、学ぶことができる社会の醸成のため、上記のように、様々な立場の人が地域と関わることができる機会を提供する。また、家庭教育充実のために、「お父さん・お母さんサポートします！」といった親世代が親としてすべきことを学ぶことができる機会を提供する。

6.7　おわりに

「まなび」や「教育」に特化し、現状把握を行った上で、将来の徳島のあるべき姿とそれを実現させるために講じるべき施策の提案を行った。これらは、少子高齢化と人口減少は、大きな課題であるが、それらの課題をクリアした場合、それらを前提とした場合のどちらにおいても、適用できるものであると考えられる。

ここで、着目したい項目・必要な項目として、次の６つを挙げた。つまり、「地域貢献をしたい若者の増大！」、「職場体験や地域社会との関わりで、今の学習がどのように活きるのかを学びたい！」、「社会人でも学びたい！でもその環境は？」、「SNS 等を利用したいじめ問題・犯罪の増加」、「社会と関わるのがコワイ？働きたくない？」、そして、「地域で能力を活かすことができる場がない？」の６つである。

以上の項目を踏まえ、「幼稚園・小学生の児童生徒」、「中学生・高校生（・小学生)」、「特別支援学校の児童・生徒」、「大学・専門学校など高等教育機関の学生」、「働いている人・高齢者」、そして、「みんな・地域社会」の各ライフステージにおいて、将来あるべき姿を描き、それを実現させるための施策の提案を行った。

つまりは、徳島に残り、または、徳島を起点として活躍し、輝く人材の育成・社会の醸成のために、どのような取組が必要であるかを検討したものである。他の章での提案と併せ、我々の提案が今後の徳島の持続可能で先進的な発展の一助になることを願う。

徳島県総合計画審議会　若者クリエイト部会
若者からの提案
～ 6. まなびの邦・育みとくしま ～

福島 明子・釋子 由香梨

はじめに

忘れることはない東日本大震災や、リーマンショックに端を発した世界的な経済不況など、多様な困難を経験している。

↓ そこで、

我々若者は、現状の何を問題視し、不安に思い、何を希望とし、将来の徳島がどのようなものであることを望んでいるのか、さらに、そのためにどのような取組を必要としているか、ということを改めて考える。

↓ さらに、

目的

「まなび」と「教育」に関して、**徳島が目指すべき将来像**とそれを**実現させるための施策の提案**を行う。

「 徳島の将来あるべき姿 」の提案

そして

「 実現させるための施策 」の提案

ライフステージ毎に提案を行う。

将来あるべき姿（1）

幼稚園・小学校の児童・生徒は？

① 子どもらしい、おもてなしの心を育んでいる

観光地の中には今もその地を訪れると子どもたちが元気にあいさつをしてくれる地域がある。これは立派なおもてなしである。また、地域の魅力を伝えられる子どもたちの育成。これにより、地域内外への地域の魅力発信につながるとともに、地域への愛着と誇りの醸成にもつながることが期待できる。徳島の子どもたちも、そうである。

② 子どもたちが地域での遊びや活動に積極的に参加し、郷土愛を育んでいる

人とのつながりが希薄になりつつある現代において、特に子どもたちが育っていく地域の中で、子どもたちが、伸び伸びと健やかに育つため、地域との関わりを持ち、幅広い年代の人と交流している。

③ 農林水産業の体験をしたことがあり、その楽しさと苦労を知っている

徳島の基幹産業である農業を中心に、農林水産業に関して、生産や漁獲から流通までの一連の流れを体験、学習することにより、地域を支えている産業について理解している。ただ楽しいという体験だけではなく、苦労も同時に学ぶことにより、日々の生活における安全、食と自然の重要性や感謝の気持ちを育んでいる。

講じるべき施策（1）

幼稚園・小学校の児童・生徒は？

① 幼稚園・小学校における「みーんなで、おもてなし！会」の開催

児童・生徒が身につけられる「おもてなしの心」について学び実践する会を県内すべての幼稚園・小学校で開催する。そのサポートを地域全体で行う。

② 「とっくしまっ子！地域のお祭りスキスキ！」イベントの開催・環境整備

地域のお祭りや行事などに、子どもたちが積極的に参加し、楽しむことができるように、子どもたち目線での楽しい演目の追加、行事の開催を行う。

③ 「農業・林業・水産業！みーんなが知っているよ！徳島！」の開催

現状での取り組みをベースにその体験内容を充実させると共に回数を増加させる。これを県内すべての幼稚園・小学校で実施する。

5

将来あるべき姿（2）

中学校・高校（・小学校）の生徒は？

① おもてなしの心を育んでいる

幼稚園・小学校の児童生徒と同様に、中学校・高校の生徒においても、地域の魅力を伝えられる子どもたちの育成。これにより、地域内外への地域の魅力発信につながるとともに、地域への愛着と誇りの醸成にもつながることが期待できる。（先述と同様）

② 小中高生が地域貢献を実践するための知識を有し、活躍の場がある

今学んでいることが、果たしてどのようなことに役に立つのかということを知らずに学ぶより、知って学ぶほうが、より効果的に、また、楽しく、将来を見据えて学習することができる。それが実現され、学習意欲の高い子どもたちが多い。さらに、それぞれの能力・個性を発揮した活躍をしている。

③ 国際的に活躍する子どもたちが多い

徳島にいながらにして国際的に活躍をする子ども、また、徳島を飛び出し、国際的に活躍をする子どもが多く存在する。

講じるべき施策（2）

中学校・高校（・小学校）の生徒は？

①「〇〇市（町・村）マイスター！」「とくしマイスター！」の認定

各市町村のことを学習し、その検定試験に合格した中学生や高校生にマイスターの称号を与える。徳島県についても同様。（認定のための学習・試験の作成が必要 …『働いている人・高齢者は？』の欄を参照）マイスター！とマイスター！先生の交流も盛ん。

②-1「徳島！本気！職場体験！」の実施

職場体験においても、数時間ではなく、何日間かに渡り、職場での職業体験を実施する。そのために、受け入れ企業・団体の募集を行い、職場体験を実践する。

②-2「徳島の仕事のことまるわかり辞典」の制作・提供

１人の生徒が多くの業種の職場体験、職業体験をすることは非常に困難であると考えられるため、農林水産業を含む、より多くの地元企業・団体の仕事について理解することができるように、テキストや映像の制作を行い、提供する。

③「東新町西新町・徳島の交流街」をつくり、盛り上げる

国際的に活躍する人材育成のため、基礎的項目として、まずは、他国の言葉や文化を理解するために、空き店舗やボードウォークを利用し、さまざまな国籍の人たちが交流できる場を設け、イベントを開催する。また、その参加を促進する。

7

将来あるべき姿（3）

特別支援学校の児童・生徒は？

① 個性を光らせ、自ら発信できている

地域全体で特別支援学校のこと、互いの児童生徒のことを理解していることを前提に、幼小中高の児童生徒たちが、互いに互いを理解し、個性を活かしている。そして、協働の取組をしている。大学・専門学校等でもその体制が整っている。

※「幼小中高の児童生徒は？」に加え、上記のことを実現する。

講じるべき施策（3）

特別支援学校の児童・生徒は？

①「徳島の若者、この人！この取組！知ってね☆キャンペーン！」の実施

特別支援学校に通う児童生徒、幼小中高校に通う児童生徒が、お互いにお互いのことを理解し、さらに、個性や能力を認めた上で、徳島の若者ではこの人！、この取組！と徳島の光を互いに見出すことができる教育（交流）を実施する。協働の取組を実施する。それを前提に、若者たちが交流できる場を創出し、それぞれの意見を聴き、それを発信できるシステムを構築する。高等教育機関でも同様である。

9

将来あるべき姿（4）

大学・専門学校など高等教育機関の学生は？

① 自らが主役・主取組であることを認識し、それらを活かすことができている

学んでいること、取り巻いている環境を理解した上で、徳島の未来は自らが担うことを認識している。さらに、学んでいる専門知識を活かし、徳島の持続可能な発展のためにすべきことを理解し、実践している。

② 文系・理系の別なく、それぞれの学びに自信を持ち世界で活躍している

現在学び研究していることは、それぞれにとって専門であり、それぞれ一番理解し発展させていくことができるものであるとの認識と自信を持ち、世界で活躍している。

講じるべき施策（4）

大学・専門学校など高等教育機関の学生は？

**①・②「トクシマ若手専門家からの発信！
みんなでトクシマSHOW！」の実施**

全国に先駆けて、多様な分野の若手研究者・学習者が、入り交じり、自らの研究学習成果を一堂に発表できる場を創出する。また、その会をコーディネートできる人材の育成と場の創出を行う。これにより、課題発見・解決、コミュニケーション、コーディネート、企画、など多岐に渡る能力を養成することができる。このとき、各研究分野の専門家の先生とのディスカッションについても、その機会を提供する。

11

将来あるべき姿（5）

働いている人・高齢者は？

① 地域の大人が地元市町村や徳島県をよく理解し、子どもたちに伝えられる

現在なされている「とくしま学博士」認定に倣い、地元地域について、その歴史、文化、自然、地理を理解した上で、地域の子どもたちに伝えることができている。

② 学びたいときに学びたいことを学びたいだけ学ぶことができている

徳島県民が欲する学びに対して、それらを包含した学びが提供されている。学ぶ側はそれらを、いつでもどこでも学ぶことができている。

12

講じるべき施策（5）

働いている人・高齢者は？

① 「〇〇市（町・村）マイスター！先生」「とくしマイスター！先生」の育成

子どもたちに地域のことを教えるために、現状の「とくしま学博士」認定者で構成されるマイスター先生を育成する。また、マイスター先生は、子どもたちへの教育に加え、マイスター検定の問題の作成等も行う。
さらに、マイスター！先生については、既存の認定について、その分野や階級を細分化する。つまり、「〇〇分野・おじいちゃんの知恵マイスター！先生」や「〇〇分野・お姉さんマイスター！先生」、「〇〇分野！専門家マイスター！先生！」など、それぞれが得意とする分野で、さらに、その知識や知恵の範疇で、自ら申請区分を選択し、「マイスター！先生」となる。

② 「徳島学び発信BOX」の提供

県民の学びへのニーズを把握するシステムの構築をする。さらに、それを可能な範囲で学びたいときに学ぶことができるように、学びに関するテキストや映像を作成する。それとともに、既に存在しているページの紹介などを行うような、情報の発信を、これまでに整備されてきたブロードバンド環境を活かし、まとめ、提供する。

13

将来あるべき姿（6）

みんなは？地域社会は？

① 健康的な人で溢れている

糖尿病や肥満など、健康について課題を抱えておらず、健康な社会を実現。

② みんなが地域社会と関わり、いきいきとした生活を送っている

ニートやフリーターが大幅に減少し、学校や会社など社会で活躍する。また、特にインターネットなどを通じた、いじめや犯罪のない社会を実現している。

③ 地域で取り組む・地域から学ぶ社会の実現

企業、地域、家庭、学校等が一体となり子どもを育てている。また、地域住民が、地域から学び、魅力等を発信している。

④ 家庭教育充実のための環境整備ができている

家庭での教育が充実している。学校等に頼りすぎない躾、教育ができている。

講じるべき施策（6）-1

みんなは？地域社会は？

①「健康やけん！」の宣言とそれに係るイベントの開催

全国と比較して現状で深刻である糖尿病などの健康被害のない社会を実現するために、まずは意識づけとして、「健康やけん（県）！」を宣言する。また、現在行われている、とくしまマラソンやセンチュリーランなどのイベントを強化する。団体の表彰制度などを設ける。さらに、他の健康増進イベントを開催する。

②「ネットの弊害、先進的に解決するけん！」の宣言とそれに係る教育の充実

世界的に抱えているインターネットなどによるいじめや犯罪、さらに、ニートやフリーターの問題について、先進的に解決するために、幼少期から上記のような取組を講じ、思いやりの心の醸成、地域と協同しての取組の充実を図る。また、「ネットの弊害、先進的に解決するけん（県）！」を宣言し、ブロードバンド環境の先進地域としての誇りを持った上で、ネット環境を駆使した弊害について、先進的にその課題に取り組む心の醸成を図る。いじめや犯罪については、その卑劣さを教育するとともに、それらを見守り注意できるような社会の醸成を図る。

15

講じるべき施策（6）-2

みんなは？地域社会は？

③・④「地域が先生」をモチベーションに地域一丸となった教育の実施

地域一丸となって、教育し、学ぶことができる社会の醸成のため、上記のように、様々な立場の人が地域と関わることができる機会を提供する。また、家庭教育充実のために、「お父さん・お母さんサポートします！」といった親世代が親としてすべきことを学ぶことができる機会を提供する。

おわりに

徳島に残り、または、徳島を起点として（心が徳島を起点としていることも含め）活躍し、輝く人材の育成・社会の醸成のために、どのような取組が必要であるかを検討した。

他のメンバーの提案と併せ、我々の提案が今後の徳島の持続可能で先進的な発展の一助になることを願う。

あ り が と う ご ざ い ま し た

その他の資料

「まなびの邦・育みとくしま」の現状での課題は？

「まなびの邦・育みとくしま」の現状での課題

① まなびの礎づくりとくしま

・　国際的に活躍する人材の育成？ICTを活用した人材の育成？

世界で活躍する人材の育成に不可欠なのは、まずは**生まれ育った地域のこと、日本のことを知る**こと。**英語や他国の言語をしゃべられるようになる**こと。さらに、ICTについては環境としての恩恵は受けているけれど、本当に**ICTを活用できている**か？

徳島県の一部の大学生、高校生とお話しをする限り（日本国内、どこもそうかも知れない）、外国語への苦手意識をもっている子が多く存在する。さらに、国外の人に比べ、**歴史を含め地域のことを知らない**人が多い。**ICTに関しても、利用はしているものの、その仕組みを知り、活用できている人が少ない**のではないか？

「まなびの邦・育みとくしま」の現状での課題

② 個性尊重とくしまづくり

・我々地域住民が、障がいのこと、子どもたちのことを理解しているか？

障がいとはどういうものか？障がいのある人と関わることがあるか？ もしかすると正しく理解しておらず、障がいのある人と関わることがない人が多いのではないか？自ら機会を求めないと、理解すらも出来ないのではないか？

「まなびの邦・育みとくしま」の現状での課題

③ みんなのまなびやとくしまづくり

・子どもたちの社会性の形成

子どもたち昔と比較して、社会性を形成することが困難なのではないか？ 核家族化が叫ばれて久しいが、近年では地域環境の変化から、隣のお家の人のことを知らない場合も多く、近所の人ですら関わることが拒まれる時代になっているのではないか。このような現状下で、子どもたちが社会性を身につけることは以前と比較して、困難であるのではないか？

「まなびの邦・育みとくしま」の現状での課題

④ 生涯まなびとくしまづくり

・学びの機会は格段に増えている。問題があるなら、その提供の仕方か？

誰でもいつでもという訳にはいかない。公的、私的、どちらをとっても、人が学ぶということについては、その機会は格段に増加している。**ICTを活用するとともに、実際に体験すること人と触れ合うことも忘れず、学ぶ機会の維持**に努める必要があるのではないか？

「まなびの邦・育みとくしま」の現状での課題

⑤ 青少年健全育成とくしまづくり

・ 地域ぐるみで子育てをする環境がなくなってきている。

③の問題と同様に、**周りの大人が子どもたちと関わることが難しくなっているのではないか。**犯罪など、近隣の住民であるとはいえ、信頼することができない状況になっているのではないか？

着目したい項目・必要な項目って何だろう？

着目したい項目・必要な項目って何だろう？

1. 地域貢献をしたい若者の増大！

東日本大震災以降、また、NPOが果たしている役割の広がりによって、近年、地域や社会に貢献できることを求めている若者が増加していると言われている。このような状況下で、若者のみならず、多様な世代が協同して時代に応じた活躍の場を検討し、創出することが求められる。厚生労働省（平成25年版 厚生労働白書　若者の意識を探る【 概 要 】）によると、若者の意識は次のようであるとまとめている。「働く目的は、経済的豊かさよりも楽しく生活することを重視。会社の選択に際しては、能力・個性の発揮を求め、長期雇用の下でのキャリア形成を志向している。」

http://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/13-1/dl/gaiyou.pdf

着目したい項目・必要な項目って何だろう？

2. 職場体験や地域社会との関わりで、今の学習がどのように活きるのかを学びたい！

今、学校で学んでいることが将来何の役に立つのかを学ぶことは、学習段階、発達段階において非常に大きな意味を持つ。そのため、地域社会で活躍するにあたってのキャリア教育が求められる。文部科学省においても、職場体験などの必要性を訴えるとともに、キャリア教育についても多くの取組を行うことを推奨している。

徳島県においても、徳島県立総合教育センターを始めとする様々な取組がなされている。

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/index.htm
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/05010502/026/001/001.htm

着目したい項目・必要な項目って何だろう？

3. 社会人でも学びたい！でもその環境は？

日本でも一般的になっている生涯学習について、社会人が仕事の時間以外で学ぶ機会は以前と比較して増加していると考えられる。文部科学省においては、中央教育審議会生涯学習分科会が開催されるなど、その議論がなされているところであるが、今の社会を考えたとき、先述のように、大まかには次の2点を考慮したい。1つ目は、ICTを活用すること、2つ目は、人と人との交流や体験を積極的に行える環境を整えることである。

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo2/toushin/1330378.htm

着目したい項目・必要な項目って何だろう？

4. SNS等を利用したいじめ問題・犯罪の増加

一般的には情報を受ける側であった国民が、気軽に発信する側にもなれる昨今、SNS等を通じた、いじめ問題や犯罪の事例は、枚挙にいとまがない。また、地域住民が子どもたちに関心を寄せる余裕がなくなる、関わると逆に不振に思われるなどの時代背景を基に、「見守り」ができなくなりつつあることも、これに拍車をかけているのではないか？

総務省においても、この深刻さを問題視しており、注意を呼びかけている。

http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/kyouiku_joho-ka/trouble_jirei.html

着目したい項目・必要な項目って何だろう？

5. 社会と関わるのがコワイ？働きたくない？

ニートやフリーターの若者が増加している。働き手が減少していくため、産業の活性化にとってマイナスの影響が出る。さらに、働かないことで、収入も多くなく、これは結婚にとってマイナスの影響があるといわれている。人口減少にもつながっていく。

http://www.mhlw.go.jp/topics/2010/01/tp0127-2/12.html

また、内閣府の「平成25年版 子ども若者白書（全体版）」の「第2節 若者無業者、フリーター、ひきこもり」によると、その理由としては、「職場や大学に馴染めなかった」「小中高の不登校」などが挙げられている。非常に深刻な問題である。

http://www8.cao.go.jp/youth/whitepaper/h25honpen/index.html

相まって、コミュニケーションを取ることに抵抗を感じている人が増加してきている。

着目したい項目・必要な項目って何だろう？

6. 地域で能力を活かすことができる場がない？

人口減少やリーマンショックに端を発した経済不況の影響もあり、特に地方では雇用の場の不足がみられている。一方で、雇用政策を取り巻く状況も近年変化している。2007年の改正雇用対策法や2003年の職業安定法の改正などを機に、これまで国が行っていた雇用対策の権限委譲が進み始めた。

雇用の不足は、生まれ育った地域や魅力のある住みたい地域で、能力を発揮したくてもできない、生活をしていけないということから、地域からの人口流出を加速させ、人口流入を抑制させてしまっている可能性がある。

「宝の島・創造とくしま」の実現に向けて

小原・島・樋泉・村松

1．2050年の将来像

(1)2050年の日本の姿

・地方では少子高齢化のピークを過ぎている
・大都市の高齢化が激しい
・一部自治体が消滅している可能性

(2)2050年に目指す徳島像

■世界のとくしま

■自立循環型の経済

■いろんな人が集まって多様性を容認できる徳島

1．2050年の将来像

＜それぞれのイメージ像＞

■世界のとくしまのイメージ
・特色があること
・世界から選ばれること
・日本の中の徳島ではなく、世界から見て徳島
・徳島が日本の玄関
・「カラー」「らしさ」が出てくると都会に流れていた人も徳島に留まる

■自立循環型の経済のイメージ
・大都市に頼らない自立した徳島
・徳島の中でお金が回っている
・35年後もまちが継続していて持続可能な形

■いろんな人が集まって多様性を容認できる徳島のイメージ
・多様性を容認すると物事のすべてがうまくいく。
・都会にいると、似たような人と集まる。田舎ではいろんな所属の人が集まる、ご近所の方とか、Mixされる
・自分が自分であって、お互いがお互いであること
・事がうまくいくためにはどうすれば良いか、みんなで助け合い、考える、風通しの良さ

2．2050年の徳島像実現のために10年後に目指すべき徳島の姿について

基本目標7「宝の島・創造とくしま」の分野から5つの重点戦略ごとに取り組むべき内容につき検討

1．誰もが幸福とくしまづくり　⇒■多様性を容認できる徳島
〇実現のために、多様な文化や価値観を認めあう必要

・いいもの、新しいものを取り入れる、縛られない
・お互いを容認しあうこと、風通しがよくオープン、境目がない
・何かの目的を達成するためにはいろんな方向性があり、100通りの仕方がある

具体的な取り組みとしては、互いを認め合うための、勉強（座学）だけでなく実体験が必要。何かを一緒に創りあげる体験。
ex）・アーティストインレジデンスのような外国の方と触れ合う機会
・牟岐の英語村
・アニメ、文化、スポーツを通じた他文化交流
・ホームステイ

2. 2050年の徳島像実現のために10年後に目指すべき徳島の姿について

基本目標7「宝の島・創造とくしま」の分野から5つの重点戦略ごとに取り組むべき内容につき検討

2　協働立県とくしまづくり　⇒■自立循環型の経済
○実現のために、官民がうまく協働する必要。地域性を活かして、新たな協働モデルとなるような先進的取り組み、地域活性化に繋がるものであれば、既存の行政分野に属さない、独自の取り組みについても柔軟に協働できる仕組みづくり。

・民に委託することにより官ではできないことができる。枠を超えて柔軟に対応できる
・方向性の取捨選択ができる、まちをデザインできる
・求める方向性のマッチングができる

必要な取り組みは、積極的に、行政から想いのあるNPOなどに委託するなどし、うまく協働する。
NPOの主体性を信頼してまかせる中で、官の力が必要な部分においては官が最大限に協力。
また、官も民間のビジネスモデルをより柔軟に取り入れていく。
ex）神山町とグリーンバレーのような関係

2. 2050年の徳島像実現のために10年後に目指すべき徳島の姿について

基本目標7「宝の島・創造とくしま」の分野から5つの重点戦略ごとに取り組むべき内容につき検討

3　活力みなぎるとくしまづくり　⇒■世界のとくしま■自立循環型の経済
○実現のために、二拠点居住の推進、サテライトワークの推進
移住の前にひとつ手前の循環する仕組みが必要（いきなり移住はハードルが高い）

二拠点居住
・「都会都会」だけでなく「地方地方」でもよい。
・船に乗る、飛行機に乗るというアトラクションがあることで行った感。
・（時間の）終わりがあることによるメリット。
・どちらかではなく、どちらも。循環。

サテライトワーク
・環境を変えることで自由な発想が出来る。
・工場的な働き方から企画計へ。サテライトの実証。
・IT×農業。
・人の循環、人が人を呼ぶ。おもしろい人、イノベーションを起こす人がいれば、それに続く人が出てくる。
・徳島からイノベーション。

2. 2050年の徳島像実現のために10年後に目指すべき徳島の姿について

基本目標7「宝の島・創造とくしま」の分野から5つの重点戦略ごとに取り組むべき内容につき検討

4　笑顔あふれるとくしま　⇒■世界のとくしま
〇実現のために、新しいかたちの徳島ならではのものを。地域ならではのものを守り、活かし、惹きつける

統一的な、現代的な都市計画

　これから35年も経てば（2050年頃）、今の日本の建物は大抵建て替わってしまう。ところが、世界の魅力的な都市は、数世紀前の町の姿、面影を今も感じる。35年後の徳島は、その後数世紀に渡って魅力を受け継ぎ続けられる形に。
ex）森の中に溶け込んだ家。景観に溶け込んだ家。インフラ機能と景観の両立。

数世紀先にも愛される姿

・海外からの視点・ツボを押さえる（祖谷の秘境、さるが温泉に入る姿。おばあちゃんが畑を耕す姿。
・四季の景観を守りつつ、人間が生きていく上での快適さも実現
・昔からの人間の暮らし。初めてやってきたのに「帰ってきた」という感じ。
・新しい文化も上手く取り入れながら、故きを温ねる（アニメ文化の活用など）

2. 2050年の徳島像実現のために10年後に目指すべき徳島の姿について

基本目標7「宝の島・創造とくしま」の分野から5つの重点戦略ごとに取り組むべき内容につき検討

5　希望に向かうとくしま
〇県民目線・県民参加による『県民主役の県政」の推進

・今回の若者クリエイト部会のように、若い世代と行政がコミュニケーションを図るツールとして、ソーシャルメディアは是非活用してくべき。
・ただ、オープンな場で自分の意見を書き込んだり、発言するのはハードルが高い。
・いかに気軽に発言してもらうかが課題。
・ハードルを下げる。発言には勇気がいるのでうまくツールを活用。
ex）フェイスブックの「いいね！」を使ったウェブ投票など、気軽に参加できる仕組みづくりが必要。
・また、自分たちの声が施策に反映される（た）という実感が湧くことで、より県政にも興味を持ってもらえる。
・民間のイベント開催などを行政が積極的にサポートする